

表-3-3 防災用語改善例(イメージ)

全くのたたき台で、イメージをつかむために仮に記載したものであり、内容については吟味したものではありません。

種別	用語	用語の意味	用語の評価	防災用語改善例(イメージ)
河川	直轄区間	1級河川のうち国が管理する区間	「直轄」という言葉になじみが薄い	・国管理区間
	指定区間	1級河川のうち都道府県が管理する区間	「指定」が何を指定しているのかが不明	・都道府県管理区間
	派川	ある川から分かれて流れる河川。派川には放水路など人工的に分岐させたものもある。	一般にはなじみのない言葉	・分岐して流れる川 ・派川
	右岸	河川を上流から下流に向かって左側が「左岸」・右側が「右岸」。	どちらが右、左かが分からない	・右岸 市側 ・東(西南北)側
	左岸		どちらが右、左かが分からない	・左岸 市側 ・東(西南北)側
	計画高水流量	河川整備の目標としている洪水の水量	一般の人には何のことか分からない。河川工学の学術用語	・治水計画の目標となっている洪水の水量
	計画高水位	河川整備の目標としている水位。この水位以下の水を安全に流すよう堤防は設計される。	一般の人には何のことか分からない。河川工学の学術用語	(防災用語として使用しない)
	水位	川の水面の高さ。多くは川底からの高さで表現される。北海道などでは東京湾平均水位(T.P.)を基準に表示されることもある。	語句の意味はわかるが、水位 m といってもどのくらい危険か理解できない。	・堤防高まで m
	既往最高水位	過去に観測された最高水位。	「既往」(きおう)という言葉は聞いてもわからない。いつからいつまでのデータのうち最高かがわからない。	・過去 年間での最高水位
	既往最大流量	過去に観測された最大の流量。	「既往」(きおう)という言葉は聞いてもわからない。いつからいつまでのデータのうち最高かがわからない。	・過去 年間での最大流量
	堤内地、堤内	堤防の河川側が「堤外地」、住宅や町などがある側が「堤内地」。もともと輪中の地区など土地を堤防で囲んで人が住んでいたため、「堤内地」という言葉が生まれた	川の中の土地と誤解されやすい。	・川の外側の土地
堤外地、堤外	川の外の土地と誤解されやすい。		・川の内側の土地 ・川の中の土地	

表-3-3 防災用語改善例(イメージ)

全くのたたき台で、イメージをつかむために仮に記載したものであり、内容については吟味したものではありません。

種別	用語	用語の意味	用語の評価	防災用語改善例(イメージ)
河川	高水敷	低水路より一段高く、洪水の時には川の水が流れる所。グラウンドや公園など、さまざまな形で利用される。	一般には河川敷と言われている。	・河川敷 ・川の中で普段は水が流れないが洪水の時に流れる部分
	余裕高	計画高水位に達した水が波うったり、流木などが流れてきても安全なように堤防の高さに持たせた余裕。	意味が分からない	
	川表	堤防の川側が「川表」、住宅や町などがある側が「川裏」。	どちら側が表か裏かわからない	・川側
	川裏		どちら側が表か裏かわからない	・町側 ・住宅側
	法・法面	堤防などの斜面	「のり」と聞いても分からない。	・堤防などの斜面
	法肩	堤防の斜面の上端	「のり」と聞いても分からない。	・堤防上面の両端部 ・堤防斜面の上端部
	法先、法尻	堤防の斜面の最下端	「のり」と聞いても分からない。	・堤防の斜面の下の先端
	割勾配	斜面の傾斜角度。斜面が水平角となす角の正接で表し、普通垂直1.0に対する水平1.0の場合を1割勾配という。	算数や数学で習うのと意味が違う。	・度の斜面、%勾配 ・1:2の勾配、1/2勾配
	霞堤	急流の河川に設けられる堤防の一種。霞堤が設けられる地点では、堤防全体は不連続となり、下流側の堤防がその地点で堤内にある程度の長さのばされる。その部分を霞堤という。堤内からの平時の排水の容易と、出水のときのおだやかな氾濫などを目的として設けられる。	河川工学用語で一般になじみが無い。	・洪水時に下流への流量を小さくするため、急流河川で設けられる不連続な堤防 ・霞堤
	越流堤	洪水が起きないように遊水地(一時的に洪水の水をためておく池)などに計画的に水が流れるよう、周辺の堤防より低くした堤防のこと。普段は水を止め、洪水時に水が流れる。分流堤ともいう。	河川工学用語で一般になじみが無い。	・洪水を堤防で越流させ、遊水地等に導くための堤防 ・越流堤
天端	堤防の一番高い面。天端は道路として利用されている所もある。	「てんば」と聞いても内容が分からない	・堤防上面	

表-3-3 防災用語改善例(イメージ)

全くのたたき台で、イメージをつかむために仮に記載したものであり、内容については吟味したものではありません。

種別	用語	用語の意味	用語の評価	防災用語改善例(イメージ)
河川	T.P.	明治6年6月10日から明治12年11月21日まで隅田川河口の霊岸島量水標で観測した結果から求めた平均潮位をTP±0と定めた。標高と同じ。	一般の人にはあまりわからない。	・ T.P.
	Y.P.	江戸川口堀江量水零位を基準とする基準面の略語。東京湾中等潮位との関係は、-0.8402m。利根川およびその支派川の土木工事に用いられる。	一般の人には全くわからない。	・ T.P.
	A.P.	東京湾霊島量水標零位を基準とする基本基準水面。東京湾中等潮位との関係は、-1.1344m。東京都都市計画、東京港・荒川・中川・多摩川の土木工事に用いられる。	一般の人には全くわからない。	・ T.P.
	EL	標高	T.P.とELの使い分けが分からない。	・ T.P. ・ 標高
	危険水位	洪水により相当の家屋浸水等の被害を生じる氾濫の起こる恐れのある水位	なぜ危険か、どこが危険か分からない。	・ 危険水位
	危険水位換算水位	ある地点の危険水位を洪水予報観測所の水位に計算等により換算した水位	意味が分からない	・ 地区はん濫危険水位 ・ 地区危険水位
	指定水位(通報水位)	水防団が水防活動の準備を始める目安となる水位。	指定、通報ではその水位の意味が分からない	・ 水防団待機水位
	警戒水位	水防団が出勤して水防活動を行う目安となる水位。	警戒する度合いが分からない	・ 水防団出勤水位 ・ はん濫警戒水位 ・ 水害警戒水位 ・ 避難準備水位
	特別警戒水位	警戒水位を超える水位で、避難判断の参考のひとつとなる水位。	何を警戒するか、なぜ警戒するかが分からない	・ 避難目安水位 ・ 避難勧告発令基準水位
	平常水位		なんとなくわかる	・ 平常時の水位 ・ 普段の水位 ・ 平常水位
	川洪水警報	国土交通省または都道府県が気象庁と共同して、洪水が生じる恐れを広く周知するために発表する。洪水注意報、洪水警報の2種類があり、これらを補足するために洪水情報がある。個別の河川毎に、その状況を水位または流量を、氾濫した後においては、水位もしくは流量または氾濫により浸水する区域及びその水深を示して予報される。	気象庁の気象予警報と混同されやすい	・ 川はん濫危険警報
川洪水注意報		気象庁の気象予警報と混同されやすい	・ 川はん濫注意報	
川洪水情報		気象庁の気象予警報と混同されやすい	・ 川洪水情報	

表-3-3 防災用語改善例(イメージ)

全くのたたき台で、イメージをつかむために仮に記載したものであり、内容については吟味したものではありません。

種別	用語	用語の意味	用語の評価	防災用語改善例(イメージ)
河川	破壊	堤防が崩壊し、川の水が堤防から流れ出すこと。	「はてい」と聞いても意味が分からない	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防が壊れること ・堤防が切れること ・決壊。
	決壊	堤防が崩壊し、川の水が堤防から流れ出すこと。	欠壊と同音異義語で紛らわしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防が壊れること ・堤防が切れること ・決壊、欠壊
	欠壊	堤防が激しい川の流れや波浪などで削り取られたり、雨の浸透により堤防の一部が崩れること。	決壊と同音異義語で紛らわしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・堤防の一部が欠ける ・のり崩れ ・洗掘
	時間雨量	mm 正時と正時の間(例:9時~10時)の1時間の雨量。「10時の時間雨量」は、9時~10時の時間雨量であることを示す。	数字を聞いても一般の人は降雨の度合いが分からない。	<ul style="list-style-type: none"> ・大雨 ・強い雨 ・土砂降り
	漏水	河川の水位が上がることにより、その水圧で堤防や地盤の中に水みちができて川の水が漏れること。	「ろうすい」と聞いても意味が分からない	<ul style="list-style-type: none"> ・水漏れ
	溢水	川などの水があふれ出ること。堤防がないところでは「溢水」、堤防のあるところでは「越水」を使う。	「いっすい」と聞いても意味が分からない	<ul style="list-style-type: none"> ・水があふれること ・越水
	亀裂		比較的理解されている	<ul style="list-style-type: none"> ・ひび割れ ・裂け目 ・亀裂
	洗掘	激しい川の流れや波浪などにより、堤防の土が削り取られること。	「せんくつ」と聞いても意味がわからない	<ul style="list-style-type: none"> ・洪水で削り取られること ・河川水の流れにより堤防や構造物周りの土が削り取られること

表-3-3 防災用語改善例(イメージ)

全くのたたき台で、イメージをつかむために仮に記載したものであり、内容については吟味したものではありません。

種別	用語	用語の意味	用語の評価	防災用語改善例(イメージ)
ダム	常時満水位	平常時にダムに貯められる最高の水位(下流で使われる上水道用水、工業用水等のための容量の最高水位で、平常時に水を貯められる最高水位)	専門的用語で一般の人には分からない	・ 平常時ダム満水位
	洪水期制限水位	夏場、大きな洪水が発生するため平常時貯められることとした水位を下げ、その容量を大きくとるために、常時満水位よりも水位を低下させる場合の水位(梅雨入り頃、水位を低下させる)	専門的用語で一般の人には分からない	
	サーチャージ水位	通常、洪水調節に使用する最高の水位	専門的用語で一般の人には分からない	
	ただし書き操作	計画規模を超える洪水時の操作(ダムの操作規則において通常、「ただし、気象、水象その他の状況により特に必要と認める場合」として規定されているため一般に「ただし書き操作」と呼ばれる。)	操作のについての情報がないのでわからない	・ 緊急のダム操作 ・ 計画規模を超える洪水時の操作
	洪水調節	洪水時にダムに水を貯めて、ダムへの流入量より少ない流量を下流へ放流すること。	洪水調節が具体的にどのような操作か分からない	・ 下流負担量軽減操作 ・ 下流放流量調節 ・ 下流放流量低下操作
	洪水量	ダムが洪水調節を開始する流入量のめやす。	ダム操作の洪水量だけ特別な意味を持っている	
	空容量		何に対して空いているのか不明	

表-3-3 防災用語改善例(イメージ)

全くのたたき台で、イメージをつかむために仮に記載したものであり、内容については吟味したものではありません。

種別	用語	用語の意味	用語の評価	防災用語改善例(イメージ)
砂防	土砂災害警戒情報	土砂災害の発生予測に関する情報で、避難勧告の基準に達した時に発表される情報。	現在は鹿児島県のみでの運用であり、今後全国展開を図り普及する。	・土砂災害警戒情報(土砂災害の発生予測に関する情報で、避難勧告の基準に達した時に発表される情報) ・土砂災害警戒情報
	警戒対象地域	(土砂災害に対する)警戒の必要性が高まった地域	現在は鹿児島県のみでの運用であり、今後全国展開を図り普及する。	・警戒対象市町村
	警戒解除地域	(土砂災害に対する)警戒の必要性が低下した地域	現在は鹿児島県のみでの運用であり、今後全国展開を図り普及する。	・警戒解除市町村
	強雨域	(ここでは)1時間に30mm以上の大雨が降ると予想される(降った)地域	現在は鹿児島県のみでの運用であり、今後全国展開を図り普及する。	・強雨域((ここでは)1時間に30mm以上の大雨が降ると予想される(降った)地域) ・強雨域
	雨域移動方向	今後の雨の移動方向	現在は鹿児島県のみでの運用であり、今後全国展開を図り普及する。	・雨域移動方向(今後の雨の移動方向) ・雨域移動方向
	土砂災害危険箇所	土砂災害の発生のおそれがある危険な箇所	概ね周知されている	・土砂災害危険箇所(土砂災害の発生のおそれがある危険な箇所) ・土砂災害危険箇所
	警戒基準	土砂災害に関する避難準備情報の基準	避難行動との対応がわかりにくい	・土砂災害に関する避難準備情報の基準 ・警戒基準(土砂災害に関する避難準備情報の基準)
	避難基準	土砂災害に関する避難勧告の基準	避難行動との対応がわかりにくい	・土砂災害に関する避難勧告の基準 ・避難基準(土砂災害に関する避難勧告の基準)
	土砂災害発生危険基準	土砂災害に関する避難指示の基準	避難行動との対応がわかりにくい	・土砂災害に関する避難指示の基準 ・土砂災害発生危険基準(土砂災害に関する避難指示の基準)